

自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会
(第6回(令和元年度第2回))
議事概要

1 日時 令和元年11月11日(月) 15:00～17:00

2 場所 総務省3階 消防庁第一会議室

3 出席者

【委員】(座長を除き50音順)

室崎益輝座長、黒田洋司委員、西藤公司委員、宗片恵美子委員

※吉川肇子委員、阪本真由美委員、永田宏和委員は欠席(永田委員の代理として小倉丈佳氏出席)

【オブザーバー】

公益財団法人日本消防協会

4 概要

(1) 開会

(2) 議事

① 自主防災組織のリーダー育成のための教育・訓練カリキュラム(案)及び研修プログラム例(案)について、事務局より、資料1-1～資料1-4に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。

○ 資料1別紙3のカリキュラムの2限目単元「地域防災リーダーの役割」と「地域づくりの意義」の中身はほぼ同じなので「地域リーダーの役割」のみでもよいのではないかと。単元の学習項目(中項目)「地域を取り巻く団体等との連携」において、地域の総合的な防災力や様々な団体がどのような活動をし、その団体とどう連携していくのかについては丁寧に講義したほうがよいのではないかと。「地域の防災リーダーの役割」を35分から30分にするなどして、現行案の講義時間5分を10分にしたりするとよいのではないかと。

○ 教材を作成してみて再度整理してみてはどうか。例えば、現行案の1限目の「避難所開設・運営」、「災害ボランティアの受入れ等」は講義内容が重複する気がするため、避難所の運営等を前に置き、避難者の健康維持や要配慮者やボランティアを後に置いたりして講義しやすいようにしてはどうか。

○ 作成した教材は今年度モデルとして研修を行うか。

年が明けて年度内に2地域程度で実施する予定である。

- 自治体職員のレベルアップをするためには、本教材を使って、まず自治体職員がきちんと研修ができるような力をつける必要がある。
- ② 自主防災組織のリーダー育成のための研修教材（素案）について、事務局より、資料2～資料2—1に基づき説明の後、意見交換。概要は以下のとおり。
 - 資料2（教材1限目）p25、26における災害時の救助・消火活動が十分でないことを示すデータについては、内閣府の世論調査等のデータを掲載しておき、必要に応じて市町村独自のアンケート結果に差し替えながら、自助の促進のために地域ぐるみの活動が必要であることを押さえておくとの後の2、3限目につながるのではないかと考える。
 - 消火活動以外の事例、例えば、家具転倒防止に関してコミュニティが協力して100%達成したなどの、自助と共助の関係が理解できるような資料があるとよいのではないかと考える。
 - 教材のスライドに対する要望として、研修を実施する自治体が是非使いたいと考える、他で使っていないような「キラスライド」があると使ってもらいやすくなるのではないかと考える。スライドのアニメーション機能を使うなどして他にない、使ってみたい「キラスライド」を導入できるとよいのではないかと考える。
 - 資料2（教材2限目）のp5の「自主防災組織とは」において、災害時の活動によって何らかの問題が起きた時の責任がどうなるかということも触れてはどうか。
 - 資料2（教材2限目）のp6の自主防災組織の活動体制の図によると、平時の役割、災害時の役割が固定されていると受け止めかねないため、活動体制の1例であることやシンプルな組織図を掲載することによって柔軟性をもたせた方がよいのではないかと考える。
 - 資料2（教材2限目）のp7の自助力の向上の取組みとして、講演会や研修、イベントの開催が挙げられているが、単独の自主防災組織レベルでは負担が大きい。日常の会合とか地域の祭りなどのイベントの中での取組みを促したほうが自主防災組織の活動のきっかけとしてはよいのではないかと考える。
 - 資料2（教材2限目）のp14の防災リーダーの心掛けに関する問いかけは、p15では防災リーダーとしての実践できることと心掛けたいことの2つとなっているので、心掛けた

いことに整合させた方がよいのではないか。

- 資料2（教材2限目）のp22の「地域の様々な人や団体との連携・協力」においては、消防団員等は顔の見える連携・協力が可能であると思われるが、商工・企業系の組織との連携・協力は、町内会単位の自主防災組織にとってはハードルが高すぎるのでそこまでこだわらなくてよい。カリキュラムにもこの前提で記載されている箇所があるが変更したほうがよいのではないか。
- 資料2（教材2限目）のp23のまとめについては、教材のテーマと整合するように、防災リーダーの役割とはこうであるとか、それを達成するためには役割分担しましょう等の形式で整理するのがよいのではないか。
- 資料2（教材3限目）のp6の「災害に備えるために4つの視点」及びp11の④防火対策・消火対策については、例示が限定的で応急手当等が漏れていると思われるため、追記してもよいのではないか。家具等の転倒防止の取組みに関しては、賃貸物件の場合の家具固定に際しての留意点も掲載した方がよいのではないか。
- 資料2（教材3限目）のp38のまとめについても、教材のテーマと整合するように整理するとよいのではないか。
- 資料2（教材2限目）のワークショップにおいて、リーダーとして実践すること、心掛けたいことのアイディアを出し合う過程で「自分でもできる」ことを見つけて地域に持ち帰ることを意図しているのではないか。
- 教材のスライドを作る際には、要点をなるべく体言止めで箇条書きにして、PowerPointのノート機能で読み原稿を掲載しておくとうよいのではないか。
- 資料2（教材2限目）のワークショップについては、現行の自主防災活動をうまく進めるために、実践できること、心掛けたいことを共有するワークショップよりもむしろ、p18にある「③仲間を作ろう」、「④地域住民とコミュニケーションを図ろう」等をワークショップに組み込んで、「仲間を増やすやり方はどういうものがありますか」、「当該団体にはどのようなアプローチをしたよいですか」等を話し合ったほうが、より得たものを地域に還元したり、広めたりすることに結びつくのではないか。
- 資料2（教材3限目）の「自助の重要性と災害への備え」に関しては、現行案では主に

地震について言及されているが、教材 1 限目で地震と風水害のワークショップがあるので、それに合わせて風水害も増やしたほうがよいのではないか。

- 教材として使うには、消防庁で提供している映像などは大変わかりやすいのではないか。実際の映像や事例に基づいてワークショップで参加者が議論できることは重要ではないか。

- 2 か所の研修会の候補は決定しているか。

詳細はまだ決まっていない。実施は年明け年度内の予定である。

- 資料 2（2 限目）のワークショップにおいて、いきなり自主防災リーダーとしての心掛けを問われても、建前的な回答にとどまり、地域に戻ってからの自主性につながるかどうかは疑問。最初は、自主防災リーダーとして、例えば「仲間を 3 人以上つくれますか」、「この役割分担をいろいろ分担できますか」、「自分はこういうことをリーダーとしてできますか」などの具体的なことを聞いてみて、できないことをできるようにするにはどうすればよいかという議論をしていただき、地域にもどる際にどれか 1 つでもできるようになればよいのではないか。

- 地域防災リーダーは、地域にどのような能力を持った人がいるかを把握しどう生かすか、またどのような人（例えば要配慮者）が住んでいて、どのような支援を必要としているかを把握する必要がある。これらのことを知るには、住民が参加できるお祭りなどを利用できるとよいので、そのようなアイディアを出し合うワークショップがあってもよいのではないか。

- モデル研修を受講できる人、対象とする人は、自主防災組織の会長や防災部長等を想定しているか。

そうです。基本的にはカリキュラムを使って教える人で、カリキュラムで想定している人である。

- 資料 2（教材 1 限目）で自分の地域を理解したうえで、2 限目のワークショップにおいて自主防災組織の促進のためにどのようなことに取り組んでいるかをみんなで共有し、足りない部分については講師が補足していくようなやりかたもあるのではないか。

- 資料2（教材2限目）p22の「地域の様々な人々や団体との連携・協力」においては、自主防災組織と連携・協力できる人や団体をワークショップで具体的に挙げて整理してもよいのではないかと。
 - 自主防災組織初心者の方が集まると、各自の悩みや地域ごとのやり方を共有するだけでもかなりモチベーションが向上する。ワークショップでは、自己紹介として各自の立場ややっていることを紹介し合うと地域の中で新たな仲間が発見でき勇気が出る。そのような時間は非常に重要となるため、ワークショップに組み込んでどうか。
 - 教材が自主防災リーダー向けではなく、住民向けとなっている部分もいくつかあるため、整理しておく必要はあるのではないかと。
 - 資料2（教材3限目）のp34における自宅の備蓄に関するチェックシートなども自分だけの問題ではなく、地域の取組みとして転換するというやり方もあるのではないかと。
 - カリキュラム（案）の「要配慮者の地域ぐるみでの支援体制」に性的少数者の方も含まれていることが分かるようにしてはどうか。そのことで当事者も助かるし、自らも声を上げやすくなるのではないかと。
- （3）その他
- 次回検討会の開催は12月9日を予定

以上